

# 第20回 宮城県高等学校演劇コンクール

第15回東北地区高等学校演劇コンクール宮城県予選

## プログラム



期日・1982年12月3日(金)4日(土)

会場・仙台市民会館小ホール

主催・宮城県教育委員会  
宮城県高等学校演劇協議会

後援・NHK・河北新報・東北放送・仙台放送・  
ミヤギテレビ・KHB



ご あ い さ つ

宮城県高等学校演劇協議会  
会長 高橋 政之助

宮城県の高校演劇コンクールも今年で第20回を迎えます。一口に20回といっても、そこにはさまざまな苦労と歴史とが秘められているに違いありません。

今日の隆盛の礎を築いてくれた諸先輩、指導者の方々に改めて感謝の念を捧げるとともに、昨年にまさる高い水準と、上演側と運営側の一致協力によって、すぐれた舞台成果を挙げることを今年大会に期待したいと思います。それが諸先輩達の努力に報いる道だと思うからです。

多数の人々のエネルギーが結集しむごに調和してこそよい演劇は生まれます。そのための確かな認識と方法とを演劇は持っています。それはすぐれて今日的な人間教育の道でもあることが近年ようやく認められてきました。高校総合文化祭ということで国や県が私たちのコンクールに補助金を出すようになりました。学習指導要領改訂により「演劇学科」を持つ高校の設置が認められる一方、芸術教科の中に「演劇」をとり入れる試みが始まっています。三十数年にわたる関係者の労苦が今実を結んできたのです。

状況の変化に対応して高校演劇の組織も発展強化され、多くの県に高校文化連盟が結成されるに至りました。これによって行政的な組織基盤は一応の完成をみるといえます。宮城県に高文連の組織がまだないのは残念ですが、全体の流れはもはや明らかであります。

第20回という大きな節目に重要な課題を荷って進む私たちにとって意義深い大会となり、会場に足をお運び下さった観客の皆様にも満足いただける大会となることを切に願ってやみません。

末尾ながら、主催して下さった宮城県教育委員会をはじめ関係各位のご労苦とご協力に衷心よりお礼申しあげご挨拶いたします。

審 査 員

全国高等学校演劇協議会 豊 博 秋 氏  
東北地区高等学校演劇協議会 大 谷 駿 雄 氏  
宮城県高等学校演劇協議会 阿 部 順 夫 氏

<式 次 第>

◇開会式 12月3日(金)

1. 開会宣言
2. 挨拶
3. 審査員紹介
4. 日程説明、諸連絡

◇閉会式 12月4日(土)

1. 審査講評
2. 審査結果発表
3. 表彰
4. 挨拶
5. 閉会宣言

<大 会 日 程>

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
第1日 12月3日(金)	舞 台	開 会 式	上演① 宮二女	上演② 涌 谷	上演③ 塩釜女	上演④ 黒 川	上演⑤ 名 取	上演⑥ 東 北				顧問 研修会
第2日 12月4日(土)	舞 台 準 備	上演⑦ 常盤木	上演⑧ 鼎が浦	上演⑨ 三 島	上演⑩ 宮 城	上演⑪ 名取北	後夜祭	閉会式				

<当日役割分担>

	総 務	接 待	進 行	舞 台	会 場	受 付	連 絡	警 備
12/3(金)	実行委	三 女	白百合	仙 工	聖 和	一 女	向 山	仙女商
12/4(土)	実行委	向 山	三 女	育 英 東 北	ドミニコ	朴 沢	白百合	ウルスラ

- 注 1. 上演後幕間討論を行います。  
2. 上演中の会場内でのフラッシュ使用撮影は固くお断りします。  
3. 上演時間は多少変わることがありますのでご了承ください。

仙台地区代表

上演1. 宮城県第二女子高等学校 生姜入りパンを焼く日

\* 作 立原えりか \* 顧問 程島 秀明  
\* 脚色 宮二女演劇部 \* 部長 石川 真理

● スタッフ

演出 鈴木 文恵(2) 菅原久美子(1)  
舞台監督 加藤 久美(2)  
装置 大友ひろみ(2) 加藤真理子(1)  
照明 石川 真理(2) 佐藤 敦子(1)  
効果 田畑 恵美(2) 鈴木 香織(2)  
衣裳・メイク 安部 典子(2) 山口 玲子(1)

● キャスト

はるが 加賀屋美奈子(2)  
母 浅野 文代(2)  
人形1 青木しのぶ(2)  
2 小野里 秋(2)  
3 佐々木麻希(2)  
4 熊谷 淳子(2)

● あらすじ

おかあさん。あたしはとけいのにわへいくよ。4ねんかんはなせなくて、ごめんね。あたしははなしたかったけど、そうすればとけいのなかにいかれなくなるから、だまっていたんだよ。いま、おかあさんとはなしをしたいけど、できない。12じになって、あかすかあとのおんなのこが、しょうがいばんをやくときになったから、あたしのこえを、きかせてあげられるけど、おかあさんねむってるもんね。とけいのにわで、あたしはぎょうれつのだどこかにならんで、1じかんごとにこうしんしてみせるよ。あたし、おかあさんがだいすきだから、とけいのにわで、いつもおかあさんを、みていたいんだもの——時計の鐘が12回鳴りました。

● 演出のことは

文化祭かコンクールか、とこの脚本をどちらでやるかと話し合うこと延々10時間。例年とは違う、今年のコンクール。我がNDCは、迷いに迷って、9月の文化祭と10月のコンクールで、別のものをやることに決定。練習は文化祭、コンクールと一応は分けたものの、みんなの頭は大混乱!! 2回ともキャストの部員は、思わず二重人格になる所だった。

“日がない、”金がない、”と言いつつ、みんなよくやったなあ実感。

この劇のはるかの純粋な母への愛情と共に、NDCの部員達の苦労も感じていただければ幸いです。

北部地区代表

上演2. 宮城県涌谷高等学校

黒いゲーム

\* 顧問 千葉 正昭  
\* 部長 吉田恵美子

● スタッフ

演出 成沢智佐子(3) 門間 千芳(3)  
舞台監督 大平智美子(3)  
装置 桜井 浩江(1) 浅野ゆかり(1)  
阿部 栄次(1)  
照明 佐々木みづ子(1) 鬼島さく子(1)  
音響 松田 洋子(1) 木村 佳代(1)  
衣裳 大野 由美(1) 菅原 久美(1)  
メイク 中沢由美子(1)

● キャスト

先生 成沢智佐子(3)  
レディ 門間 千芳(3)  
フーテン女C 橋本あけみ(3)  
フーテン女D 那須智香子(3)  
ゲリラ 吉田恵美子(3)  
箱女F 佐竹 薫(3)  
箱女G 中沢由美子(1)  
看護婦 大平智美子(3)  
現実患者 浅野ゆかり(1)

● あらすじ

ここはお玉ヶ池の精神病院。

今日も相変わらずにぎやか。フーテン女の死んだ真似コンクール、ゲリラ女のマジ演説。ロマン主義と現実主義を錯綜させ、混乱した言葉を吐くベシミスティックな女。それらを冷やかに見つめる女教師。そしてフーテン女のひとりがつぶやく「わからない」という言葉。つまりどこに価値があるのか。すべては虚だ。狂気の沙汰だという下りは面白い。世相を諷刺し、人生観の価値軸を問う姿勢は、注目して考えていただきたい。

● 演出のことは

- ① 日本の現代風俗をどのように捉え、それを如何に批判的に演出するかを考えたため。
- ② 60年代の世相を、過激派グループ・フーテン族などと分類し、その存在意義をすべては狂気であると定義する。価値観の変容がはなはだしい世の中を、劇中の女教師はいう。「すべては、わからないと……」。
- ③ 世相の縮図を精神病院と規定しうる状況設定が、どの程度観衆にアピールできるかが最大の問題であった。

東 部 地 区 代 表

上演 3. 塩釜女子高等学校

狂 育 白 書

\* 作 佐々 俊之

\* 顧問 石山 義章

干美恵田吉 豊橋 文海劇部

\* 部長 相沢 まみ

● スタッフ

演 出 小島いづみ(3)  
相沢 まみ(2)  
舞台監督 友杉 和子(2)  
装 置 足立 雅子(1) 高橋 千枝(1)  
林 知加(1) 飯村 京(3)  
鈴木 祥子(2) 小玉 周子(3)  
佐藤 浩美(3)  
照 明 岩佐 奈美(2) 吉川 純加(1)  
本郷 夕子(1) 渡辺 宏江(1)  
安藤 恵子(3) 戸田 美子(3)  
効 果 赤間 由美(1) 三品 美樹(1)  
三島 淑子(3)  
衣 裳 風間 美紀(1) 村山 明美(1)  
田村 由紀(3)  
プロンプター 平井 智子(1)

● キャスト

女生徒 A (アキコ) 小玉 麻美(3)  
B (文子) 板橋由美子(3)  
C (母) 加藤 久美(3)  
D (語り手) 田山 豊子(3)  
E (江川) 茂泉真由美(3)  
F (二葉) 遠藤 文恵(1)

● あらすじ

「我々は、平均8時間以上の予習復習をしなければ、授業についていけないという計算になる。生徒は時間が足りない。生徒はイライラしてくる。そして生徒はアキラメル。」

そんな現代教育に疑問を抱き、一つの脚本を通して教育のあり方を訴えようとする演劇部員達。

「つまりは、その8時間半について考えることから始まる。」という作者の結論。

本当にこれでいいのか。

● 演出のことは

皆さんは、勉強好きですか？ 嫌いですか？

毎日予習復習してますか？ 何時間してますか？

「教育問題」は私達の目の前にズォーンとそびえ立っていると思うのです。皆さんが私達の劇を通して、教育について考えて下さればさいわいです。

この劇で一番難しく感じたのは“場面転換”。あれこれ考えて！考えて……(うーん)。んじゃまずやってみよう。と、演技して！演技して……(どえいっ)……ああでもない、こうでもない、とにかく一生懸命がんばりました。

北 部 地 区 代 表

上演 4. 宮城県黒川高等学校 愛染傷-ハート of Abstraction-

\* 作 川名又一, 演劇部 \* 顧問 川名 又一, 阿部 勉

\* 部長 柿沢 正己

● スタッフ

演 出 佐々木美和(3) 小川 吉美(2)  
数野由美子(3)  
舞台監督 佐藤 栄子(3) 柿沢 正己(2)  
装 置 菅 耕二(3) 佐藤 清美(3)  
渡辺まゆみ(1)  
照 明 石川紀代美(3) 斎藤 直美(3)  
鹿又 純一(3) 高橋 真理(1)  
沢田 純子(3)  
効 果 荒木 勉(3) 永沢 映美(1)  
南生 清美(1)  
衣 裳 佐藤美智子(3)

● キャスト

景 子 柿沢 正己(2)  
泰 子 渡辺まゆみ(1)  
芳 夫 小川 吉美(2)  
景子の母 南生 清美(1)  
クロスA 佐藤 清美(3)  
クロスB 佐々木美和(3)  
クロスC 佐藤美智子(3)  
バイクの男 鹿又 純一(3)

● あらすじ

高校2年の景子は、3年の芳夫に思いをよせていた。ところがある日、景子の親友泰子が芳夫とつきあっていることを知る。景子の思いを知っているはずの泰子が芳夫と……。景子の心は……。景子は芳夫を呼び出す。「泰子が変な人達と付き合っている。」と言ってしまふ。もちろん景子も泰子と同じで、付き合いがある。恋のために自分を飾ってしまう景子。

景子は、自分のしたことがどんなことであるかに気付き、どんどん落ち込んでしまふ。そして自分の心の中に落ちていく。そこで景子が見たのは……。

「暗い 暗い 真暗さ

どこへも行くところないんだよ。

どこへも逃げられないんだよ。」

● 演出のことは

「さあーて、今年は何やりたい？」

全員一致の抽象劇！ 私たちは、若者だ。あなたたちも若者だ。ほら、囲りを見てごらん。飛んではしゃいでいる人も、独りになるとみな同じ。さァ！ツッパッている人だって、片思いに悩むこともある。

今年、私たちにたくさん問題がふりかかってきましたが、そんなことは何のその。KDCはへこたれん?!

「前進あるのみ、なおみやるぞー！ たくさんみなさんに観ていただけたらうれしいです！ ハートでがんばります!!

「昨日のままじゃ 生きていけない。

下を向いてちゃ 明日はこない。」

南部地区代表

東北地区代表

上演5. 宮城県名取高等学校 対学 植生の宿

脚本 \* 作 問 石塚 雄康 \* 顧問 松本 三弥, 郡山 輝子
\* 部長 小田嶋幸枝

● スタッフ

演出 小田嶋幸枝(3)
高橋 信江(2)
舞台監督 阿部 美佳(3)
平田 美子(1)
装 置 横山美貴子(1)
照 明 高橋 信江(2) 福田 純子(1)
庄子 美香(1)
音 効 三浦 薫(1) 阿部恵久美(1)
衣裳・メイク 高橋 純子(3) 村田るみ子(1)

● キャスト

母 星 宗子(3)
姉 石井 雅代(2)
妹 清水 浩子(3)
姉の娘 井上真樹子(1)

● あらすじ

母親は、娘たちを20歳まで「箱入り娘」として育てている。娘たちは、20歳の誕生日を迎えた時、大人として認められ自由になれる。二人姉妹の姉ミヤコがその箱をぬけ出す日、妹のショウコも自由を求めた。

母の手首には鎖が一。「鎖の先にはお父さんがいる。」と、ミヤコとショウコは信じていた。しかし！……。真実を知ったショウコは、耐え切れなくなり、とうとう箱をつき破って家を飛び出してしまう。そして母もあとを追った。

数年後、ショウコが赤ん坊を抱いて帰ってくる。しかもミヤコの娘メメの20歳の誕生日に。

そして結局は……！

● 演出のこぼ

家・親の愛情—束縛・迷惑・退屈—そこから逃れようとする気持は、子供としての私達なら誰でもが心の片隅に抱いていることではないだろうか。しかし、反面、家が、そして親の愛情の中にいることが一番平和で安穩であることもわかり切っていることなのに。

これらの矛盾を知りながら、更に自由を求めて「箱」から飛び立ってみても、そんな場所はなく、またオリのような家に帰ることになるこの「自由」の不自由。

結局、親の愛情は私達の重荷であり、そこから脱出することのみが自由につながる道なのであろうか…？

母の心情、父の幻影、「家」の存在……。作者のねらいが、私達の手で演出できるであろうか？ 壁。

Try。壁……とにかくやってみた。

仙台地区代表

東北地区代表

上演6. 東北高等学校 対学 DAY FLY

脚本 \* 作 演劇部 \* 顧問 斎藤 信雄
\* 部長 数馬 茂

● スタッフ

演出 山内 孝一(3) 白石 浩寿(2)
舞台監督 芳賀 一弘(2) 今内 隆(3)
装 置 芳賀 一弘(2) 佐藤 芳幸(2)
照 明 伊藤 祥司(2) 佐藤 芳幸(2)
音 効 山口 史訓(2) 今内 隆(3)
衣裳・メイク 白石 浩寿(3) 中西 直行(2)
数馬 茂(2)

● キャスト

神 白石 浩寿(3)
A 山内 孝一(3)
B 大塚 昭彦(3)
C 数馬 茂(2)
D 中西 直行(2)
ギター 丹野 顕治(1)

● あらすじ

神が天と地を創造なされてから、神は自分に似せた「人間、をつくられた……。だが、その人間達は1人1人になり、始めて善、悪を知った……。

いくら手を伸ばしても何も得ることがなかった。

そして、土に帰っていった使徒達。

● 演出のこぼ

あなたは、今の世の中の生活に満足していますか。

あなたは、自分で自分を見つめることが出来ますか。

あなたは、それを聞かれてもすなおに答えることができるでしょうか。と、今こんなことをふと思ってしまいました。人間として欠けていたものを見つけてみませんか。この劇を見てどう感じられるでしょう。

今、自分たちはそんなことを考え練習を積み重ねてきました。

その言葉をこわさぬよう、精一杯頑張ります。

仙台地区代表

奏升凶世台山

上演7. 常盤木学園高等学校

a tempo

\* 作 演劇部

\* 顧問 小野寺典世, 今野 仁

\* 脚色 演劇部

\* 部長 加藤 琴絵

● スタッフ

● スタッフ
演出 佐々木輝美(3)
舞台監督 加藤 琴絵(2)
舞台監督 天野 敏恵(2)
伊藤 明実(1)
装置 斎藤 洋子(2) 鈴木 一恵(1)
真木 富美(3) 杉山知佳子(2)
照明 菅原 正子(2) 菱沼 明美(1)
佐藤 陽子(2) 佐藤 純子(1)
効果 相原 幸枝(2) 宇津沢圭子(1)
赤習 麻野(2)
衣裳 板橋ゆかり(1) 松井 明美(2)

● キャスト

● キャスト
真 帆 大森 和枝(2)
ゆうこ 笹原 晴美(3)
美 晴 菅 由理恵(3)
涉 子 三浦 英美(1)
女の子 郷家 明美(2)
女 1 小島 早苗(3)
女 2 船越 佳子(2)
女 3 斎藤千恵子
幼少真帆の声 杉山知佳子(2)
幼少ゆうこの声 赤羽 麻野(2)
先生の声 天野 敏恵(2)

● あらすじ

本当の自分をみつけるその時――。

● 演出のことば

一生懸命やってきました。

その成果が発揮できればしあわせです。

● 演出のことば

家・親の愛情・愛情・愛情... 家族の愛情... 家族の愛情...

女子校のあつた、... 女子校のあつた、... 女子校のあつた、... 女子校のあつた、...

大石右(定) 幼少のあつた、... 幼少のあつた、... 幼少のあつた、...

東部地区代表

奏升凶世台山

上演8. 宮城県鼎が浦高等学校

\* 作 林 黒土

\* 顧問 川島 京子, 赤坂 勝

\* 脚色 演劇班

\* 部長 熊谷 敬子

● スタッフ

● スタッフ
演出 白井 志乃(3) 田村あゆみ(3)
小野寺由紀枝(2)
舞台監督 小野寺由華(3) 高久 和子(1)
熊谷 敬子(2)
装置 前田 美穂(3) 高久 和子(1)
照明 三浦 裕子(3) 梶原ゆかり(3)
仮屋 浩美(1) 斎藤 美幸(1)
効果 高橋 千春(3) 吉田奈保美(3)
熊谷 敬子(2) 畠山 浩子(1)
衣裳・メイク 小野寺由華(3) 村上 由紀(3)
玉川 優子(1) 畠山きよえ(1)
小湊 治子(1)

● キャスト

● キャスト
マリ 芦立江里子(1)
エミリー 木下 尚美(1)
ひで 小野寺由紀枝(2)
竹本 畠山 浩子(1)
敬太 藤原 淳子(1)
村人その1 中澤久美子(1)
その2 小野寺恵子(1)

● あらすじ

主人公マリは、ひで婆さんの娘とアメリカの黒人兵との間に生まれた混血児である。

マリは、肌の色が「黒い」というだけで村人からいつもひどい仕打ちを受けていた。ただ一人の身内であるひで婆さんの心情は、愛情と憎悪がまじり合い、どうしてもマリに対して心を開くことができなかった。

そんなある日、カンタベリーホーム時代の親友エミリーが、マリを頼りにホームを抜け出して、芦屋へ尋ねて来た。その時、村人がエミリーのした飯泥棒の犯人をマリだと誤解し捕えに来た。そして、とっさに射撃場に逃げたエミリーを庇って、マリは撃たれてしまった。

● 演出のことば

戦争の傷あとは、今も根強く尾を引いています。その一つが、アメリカの黒人兵との混血児であるマリとエミリーです。

自分の肌の黒いことに対して、マリは自分の存在に意味をつけようと、もがき苦しみ、エミリーは“黒”を克服する為、より安易な逃げ道を探そうとしています。二人は“黒”の壁に対するそれぞれの考え方を相手に理解させようと必死なのです。一方ひでの心は、マリがアメリカ兵の子であるという憎しみと、ただ一人の孫娘だという愛しさが交差しあい、自分の気持を掴みきれず、不安定に揺れ動いています。私達は「人間の平等」と「疎外感の苦しみ」を、この三人の複雑な心の絡み合いを通じて表現したいと思います。

マリ、エミリー、ひで... マリ、エミリー、ひで... マリ、エミリー、ひで... マリ、エミリー、ひで...

仙台地区代表

表升区出陪東

上演9. 三島学園女子高等学校 高瀬 舟

\* 作 三島学園演劇部 \* 顧問 徳山昭光子, 小栗 典子
\* 部長 丹 美智子

◎ スタッフ

演出 丹 美智子(3)
舞台監督 北見ゆかり(3)
装置 山田貴代美(1)
照明 相沢 朱美(1)
効果 熊谷 千春(1)
小林 浩美(1)
衣裳・メイク 佐藤 知香(3)
佐藤 清美(2)
小道具 後藤 幸子(1)

◎ キャスト

穂 子 三沢 圭子(3)
奈 緒 相沢 絵美(2)
弥 生 後藤 治美(3)
樋 口 鈴木 宏子(2)
智恵子 佐藤 清美(2)

◎ あらすじ

「高瀬舟っていうのは、京都の高瀬川を上下する舟のことだね、徳川時代に島流しをし渡された罪人は、それに乗って大阪までおくられたのよ。その船頭の庄兵衛が、ふと声を掛けた罪人の喜助から、弟殺しのいきさつを聞くんだけど、それはね……」

◎ 演出のことば

今年は「あなたの知らない世界」を、お見せいたします。どうぞ、ごゆっくりご覧下さい…とはいえ、今回の上演にあたっては、かなりの(?)苦労があり、たった40~50分の時間で終わってしまうのは残念でたまりません。

舞台装置においては、本当に私達女の子かしら…と、うたがう程の体力・パワー・行動力・設計・建築と様々な面で活躍し、他のスタッフ、キャストも、朝もはよから、夜遅くまで、せっせと、せっせとやりました。これだけ説明したんですから、そこのあなた!見ないと後悔しますよ!! さあ、綴張が上がります。

高瀬舟の史記
小道具は(月+舟を1つ)
セリふ、小、
舟の物語の物語の物語
月(舟+舟)の舟の舟

舟の舟の舟の舟

仙台地区代表

学校演劇コン表九区団大養南

上演10. 宮城学院高等学校 女 狐

\* 作 宮城学院演劇部 \* 顧問 砂川 尚美, 高沢 廣子
\* 部長 加藤 祐子

◎ スタッフ

演出 大内由佳子(3)
加藤 祐子(2)
舞台監督 片桐 美幸(2)
装置 遠藤富美子(2) 中川 享子(1)
菊地 美奈(1) 高橋 清江(1)
照明 鎌田 陽子(2) 小原 恵(2)
効果 黒瀬 直子(3) 熱海 真紀(1)
衣裳・メイク 森 美保子(2) 鹿野由美子(1)

◎ キャスト

キツネ (ハナ) 高橋 知子(1)
カラス 渡部三妙子(1)
イ、ヌ 浅井 実紀(2)
神 田 渋谷久美子(2)
葉 子 加藤 祐子(2)
少女 鈴木 直子(1)

◎ あらすじ

私は何ということをしてしまったのだ。

あれ程心の底から悔恨したはずなのに……。どんなに逆らっても、きつねの習性から抜ける事が出来ない。ただ、汚らしい罪に、浅ましい罪が重なり、苦悩が増大し、強烈になるだけ。きつねである私が生きていくこと自体が罪なのよ。死にたい。死ななければならぬ。

きつねの屈折した心の物語です。

◎ 演出のことば

愛は寛容であり、愛は情け深い。また妬むことをしない。愛は高ぶらない、不作法をしない、自分の利益を求めない、苛立たない、恨みを抱かない、不義を喜ばないで、真理を喜ぶ。そして、全てを忍び、全てを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

このように、いつまでも、存続するものは信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで、最も大なるものは愛である。

聖書コリント人への第一の手紙13章より。

南部地区代表

表升区世台山

上演11. 宮城県名取北高等学校

遠くへ行った又三郎

\* 作 石山浩一郎

\* 顧問 大石 和彦

\* 部長 姉齒 孝和

\* 部長 姉齒 孝和

● スタッフ

演出 羽田 良浩(3)  
 舞台監督 姉齒 孝和(2)  
 装置 小原 陽子(2) 森 好子(3)  
 鈴木 貴和(1)  
 照明 鹿野 幸枝(2) 菅井 照美(3)  
 佐々木徹夫(3) 片山 貴子(1)  
 菅原むつみ(1) 姉齒 孝和(2)  
 効果 菅原 広明(2) 越路 美紀(3)  
 佐藤 美雪(1) 佐々木まゆみ(1)  
 衣裳 早川 和美(2) 若生 千晶(3)

● キャスト

昭和の子供 1 菅原むつみ(1)  
 " 2 早川 和美(2)  
 " 3 鹿野 幸枝(2)  
 " 4 姉齒 孝和(2)  
 " 5 鈴木 貴和(1)  
 " 6 今野 雅通(3)  
 " 7 佐々木まゆみ(1)  
 乞食の老人 羽田 良浩(3)  
 風の又三郎(高田三郎) 小原 陽子(2)  
 先生A 羽田 良浩(3)  
 " B 佐藤 美雪(1)  
 " C 菅原 広明(2)  
 " D 森 好子(3)  
 ギター弾きの少女 佐藤 美雪(1)

● あらすじ

終戦直後、瓦礫の吹きだまりに、風に舞う枯葉のように浮浪児達（昭和の子供たち）が吹き寄せられてくる。彼らは互いに貧しい身体をすり合わせ、震えている。飢えと絶望のどん底から子供たちは、マリア様を渴望する。「マリア様が愛とほほえみをもって、僕たちを苦しみから救いに来てくれる。」と、その時乞食の老人が通りかかる。子供たちは老人をマリア様だと思い、食べ物乞うが、老人はどん底の中でも生きていることを説き、去って行く。と、一陣の風が吹き、風の又三郎が現われる。彼は、自らマリア様だと名乗り、ありとあらゆるものに満たされたポンポコポンの世界（現代）に子供たちを誘う。ポポコポンの世界とは一体……。

● 演出のことば

第二次大戦後、日本は新しい道を歩み始め、ついに現在「経済大国」と呼ばれるに至りました。しかし、新生日本建設にあたり、我々が望んだのは単に「もの」だけだったのでしょうか。新憲法を貫く民主主義の思想には自由と平和を確立し得る可能性が秘められているはずですが。にもかかわらず「もの」を求めあまり、この可能性を軽視し、妥協し、放棄し、誤解し、すりかえ、誤用してきたとしたら……。いや、これらの誤りを正そうとしたところで、何か巨大な力に押しつぶされるのが宿命なのかもしれません……。

科学的・物質的な進歩と、本当の意味での理想郷が溶け合い両立する事はできないのでしょうか？

第20回宮城県高等学校演劇コンクール地区大会

上演記録

(参加 32校)

△印は創作

◇ 仙台地区大会兼第15回仙台市高等学校演劇祭

10月22～24日（金～日）仙台市民会館小ホール

仙台南 神原政常作  
 聖 和 一柳俊邦作  
 仙北向山 高子 実作  
 第二女子 △演劇部脚色 立原えりか原作  
 白百合 原 勝美作  
 仙台 △前小路順脚色 太宰治原作  
 仙台工 竹内統一郎作  
 尚 綱 一柳 俊邦作  
 泉 △演劇部作  
 朴 沢 雑賀 聖作  
 宮 城 △演劇部作  
 三 島 △演劇部作  
 第一女子 福福田 薫作  
 仙台一 △吉田正太郎作  
 第三女子 岩下容子作  
 常盤木 △演劇部作  
 育 英 △後藤 剛作  
 ドミニコ 田中わこ作  
 東北 △演劇部作  
 ウルストラ △演劇部脚色 モーパッサン原作

◇ 東 部 地 区 大 会

多賀城 石山浩一郎作  
 塩釜女子 佐々木俊之作  
 (鼎が浦) 林 黒土作

◇ 南 部 地 区 大 会

船岡養護 △小林秀樹・安倍和子作  
 白石女子 津留達児作  
 亘 理 神原政常作  
 名 取 石塚雄康作  
 名取北 石山浩一郎作

◇ 北 部 地 区 大 会

南 郷 農 湘南女子高作  
 中 新 田 神宮茂十郎作  
 黒 川 △川名又一作  
 涌 谷 船津量平作

外向一六八  
 朝の光愛しく  
 透明な壁の中で……………演技賞(大友彰子)  
 生姜入りパンを焼く日  
 風の又三郎……………舞 台  
 お伽草紙舌切雀……………舞台美術賞  
 劇 葉……………演技賞(高橋みゆき)  
 立 春 譜  
 Conception  
 たおやかな偏光  
 女 狐……………優良賞  
 高 瀬 舟……………優良賞  
 春山夢幻  
 親愛なる母国に眠る  
 闇夜のファンタジー  
 a tempo ……………優秀賞  
 Sugest 症候群  
 しあわせ  
 DAY FLY ……………最優秀賞  
 サボの告解

10月31日（日）多賀城高校体育館

闇は裂けよ地の底の…音響効果賞・演技賞(西村敬)  
 狂育白書……………優秀賞  
 黒い太陽

11月6日（土）名取北高校体育館

弱 き 者……………創作奨励賞  
 母 と 子……………舞台装置賞  
 赤ずきんーザ・紙芝居……………演技賞(伊藤美枝子)  
 埴生の宿……………最優秀賞  
 遠くへ行った又三郎……………優秀賞

11月14日（日）涌谷高校体育館

ある群れ……………舞台美術賞  
 萩 の 花……………演技賞  
 ハート of Abstraction……………最優秀賞  
 黒いゲーム……………優秀賞



宮城県高校演劇コンクールのあゆみ

- 第1回(昭38.11)  
最優秀 尚 綱 「娘たち」
- 第2回(昭39.11)  
最優秀 育 英 「同志の人々」
- 第3回(昭40.11)  
最優秀 仙台第三 「轍」  
特別賞 三 島 「伽羅先代萩」
- 第4回(昭41.11)  
最優秀 仙台工 「木龍うるし」  
優 秀 白百合 「スカパンの悪だくみ」  
優 秀 名 取 「次郎案山子」
- 第5回(昭42.11)  
最優秀 宮 城 「静かなる朝」  
優 秀 仙台女商 「母と娘」  
優 秀 電 子 「第三の火の中で」
- 第6回(昭43.11)  
この年より仙台市公民館が主催。仙台市高校演劇祭と称する。  
最優秀 仙台工 「ふきだまり」  
優 秀 宮 城 「唾のユミュリュス」  
優 秀 電 子 「轍」
- 第7回(昭44.11)  
最優秀 仙台工 「面(ますく)」(創)  
優 秀 宮 城 「高等学校数学I」  
優 秀 白百合 「長い長い橋の上で」
- 第8回(昭45.11)  
最優秀 仙台工 「勉強を邪魔する奴は誰だ」  
優 秀 仙台商 「橋の上」  
優 秀 第三女子 「墨東記」
- 第9回(昭46.11)  
最優秀 名 取 「魔女宣言」  
優 秀 尚 綱 「虫めづる姫君」  
優 秀 聖 和 「遠いふるさと」
- 第10回(昭47.11)  
最優秀 ウルスラ 「ある群れ」  
優 秀 常盤木 「試行錯誤」  
優 秀 白百合 「ある午後」
- 第11回(昭48.11)  
最優秀 名 取 「影ぼうし紀行」  
優 秀 常盤木 「当世幻談」  
優 秀 ドミニコ 「静かなる朝」
- 第12回(昭49.11)  
最優秀 常盤木 「才女ありて」  
優 秀 仙台女商 「試行錯誤」  
優 秀 育 英 「ポンコツ車と五人の紳士」
- 第13回(昭50.11)  
最優秀 名 取 「流れ星四番」  
優 秀 聖 和 「遠いふるさと」  
優 秀 仙 台 「遊びましょ」
- 第14回(昭51.11)  
最優秀 聖 和 「ある群れ」  
優 秀 名 取 「聞いてる?ミランダ」(創)  
優 秀 第二女子 「夢の中へ」(創)
- 第15回(昭52.11)  
宮城県教育委員会との共催となる。  
最優秀 常盤木 「三途の川を渡りそこねた少女の話」(創)  
優 秀 聖 和 「薯の煮えるまで」  
優 秀 鼎が浦 「埴生の宿」
- 第16回(昭54.1)  
地区大会(予選)制となる。  
最優秀 東 北 「蟬蛸」(創)  
優 秀 宮 城 「不思議な国のアリス」(創)  
優 秀 常盤木 「鬆陰」(創)  
優 秀 名 取 「遠くへ行った又三郎」
- 第17回(昭54.12)  
最優秀 朴 沢 「しんでら・げえむ」  
優 秀 仙台第一 「永い冬の終わる頃」(創)  
優 秀 第二女子 「栄光の日」
- 第18回(昭55.12)  
最優秀 黒 川 「無(ガラスの迷路)」(創)  
優 秀 朴 沢 「にび色の砦」  
優 秀 鼎が浦 「蚊遣火」  
優 秀 名 取 「おやめ!眠り犬を起こすのは」
- 第19回(昭56.12)  
最優秀 鼎が浦 「灰スクール」  
優 秀 宮 城 「Daydream believers」(創)  
優 秀 名 取 「柳」

<大会役員>

- 大会実行委員 実行委員長 高 橋 政之助  
副委員長 五十嵐 迪 雄  
事務局長 阿 部 順 夫
- <総 務> 渡辺 喜雄(事務局), 千葉 正昭(涌谷), 今野 仁(常盤木),  
徳山昭光子(三島), 山下 雅範(多賀城), 松本 三弥(名取)
- <接 待> 永沢 幸助(向山), 川村 裕子(泉), 亘理 正子(亘理),  
川村 京子(鼎が浦)
- <進 行> 穂積 正一(白百合), 内海 郁夫(三女), 程島 秀明(二女)
- <舞 台> 渡辺 繁(仙工), 遣水 満雄(育英), 佐竹 誠(仙工),  
斎藤 信雄(東北)
- <会 場> 佐藤喜志夫(聖和), 熊谷 久子(ドミニコ)
- <受 付> 浅野 茂雄(一女), 伊藤真理子(朴沢)
- <警 備> 高橋寿美子(女商), 菊地 節子(ウルスラ)
- <技術指導> 金野 倫明, 木田 修司, 小野 正宏, 阿部 尚, 小野 健市

< 生徒実行委員会 >

委員長 松岡 洋子 (ウルスラ3)

副委員長 目黒 早苗 (向山2)

“ 富田 豊広 (育英3)

“ 相沢 久子 (白百合2)

石川真理・菅原久美子 (二女), 相沢久子・高橋いずみ (白百合), 大場政信・高橋みゆき (仙工), 高橋潤子・橋端和江 (ドミニコ), 板橋ゆかり・佐藤純子 (常盤木), 佐々木真理・黒沢史代 (泉), 富田豊広・伊藤祐一・飛鳥井豊 (育英), 伊藤祥司 (東北), 高橋しのぶ・佐藤由美子 (三女), 阿部千恵子・庄子やよい (聖和), 榊原亜佐子・庄子美和 (仙高), 鹿野由美子・菊地美奈 (宮学), 片平広子・千葉淑子 (尚綱), 会沢亜美・小山さゆり (一女), 小椋晴美・千葉知香 (ウルスラ), 大友章子・目黒早苗 (向山), 品川ゆみ子・三浦多美子 (女子商), 千葉真由美・針生美智子 (朴沢), 松岡洋子 (ウルスラ)

感想・メモ欄

大会事務局 〒980 仙台市荒巻字国見東山12番10号

仙台高等学校内

宮城県高等学校演劇協議会事務局

(阿部順夫・渡辺喜雄)

TEL 0222 - 71 - 4471

宮城県高等学校演劇協議会加盟校

尚綱女学院高等学校

仙台女子商業高等学校

仙台工業高等学校

東北高等学校

東北電子工業高等学校

聖和学園吉田高等学校

仙台育英学園高等学校

宮城学院高等学校

仙台白百合学園高等学校

宮城県名取高等学校

聖ウルスラ学院高等学校

常盤木学園高等学校

宮城県第三女子高等学校

仙台高等学校

宮城県仙台南高等学校

宮城県名取北高等学校

宮城県仙台向山高等学校

宮城県泉高等学校

宮城県塩釜女子高等学校

宮城県塩釜女子高等学校

宮城県鼎が浦高等学校

宮城県白石女子高等学校

宮城県黒川高等学校

宮城県多賀城高等学校

宮城県第二女子高等学校

朴沢女子高等学校

宮城県涌谷高等学校

三島学園女子高等学校

宮城県仙台第一高等学校

宮城県立船岡養護学校

宮城県南郷農業高等学校

仙台商業高等学校

聖ドミニコ学院高等学校

宮城県仙台南高等学校

宮城県名取北高等学校

宮城県亘理高等学校

宮城県中新田高等学校

宮城県築館高等学校

宮城県第一女子高等学校

(36校)

